

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902603		
法人名	有限会社ヘルプ		
事業所名	グループホーム福寿草 1階		
所在地	北海道旭川市永山2条23丁目1番22号		
自己評価作成日	平成29年10月16日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0172902603-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社創設から掲げている「ここは我が家だ」の理念を基に、入居者は家族の一員、人生の貴重な先輩として対応することを心がけている。日常生活の中で、入居者本人や家族の思いを汲み取る為に関係を密にし、よりよい支援に繋げるようにしている。健康管理についても毎日の体操や日替わりのレクリエーション活動を充実させ、ADLの機能維持・向上に努めている。母体の医療機関とは24時間体制で医療連携が取れており、利用者様の体調変化について随時報告行っている。個別支援にも力を入れており、要望により個別外食や運動、余暇活動を取り入れ、その人らしく楽しみや目標を持てるように工夫している。又、町内会の町内清掃や学童防犯パトロール、高齢者独居宅の除雪事業に協力したり、近隣にある旭川大学の実習生の受け入れ、附属幼稚園のお遊戯会の見学など地域との連携、協力体制も構築されている。地域包括支援センターや社会福祉協議会とも協力し、地域の町内会や学校などで認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の啓発にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム福寿草」は、JR永山駅から徒歩圏内にあり、バス停留所からも近い住宅地に建っている。周囲には旭川大学、幼稚園、スーパーなどがあり生活の利便性にも恵まれている。学生寮を改築した2ユニットの居間は事務所やキッチンと一体感があり、季節の装飾などで家庭的な雰囲気である。当事業所は、家という理念に沿って地域と共に暮らす生活を実践している。大学祭の屋台で好きなものを選んで楽しみ、大学サークル学生の来訪時には、コーラスで利用者も一緒に歌っている。学生の実習受け入れのほか、ボランティア来訪でのマジックショーもある。事業所は地域への協力を積極的に行い、近所や家族から戴く新鮮な野菜類は食卓に彩りを添えたり、桜餅など季節のおやつやジンギスカンパーティーなどで食生活を豊かにしている。母体の協力医療機関との連携で健康を管理し、毎日楽しみながら行うレクリエーションで健康維持にも力を注いでいる。利用者の趣味や意向に沿って職員は親身に接し家族にも喜ばれており、毎月個人ごとに手書きで送る通信は楽しみになっている。管理者は法人研修に可能な限り全員が参加できるよう配慮し、質の高いケアを提供している。毎月会議で利用者の状態を丁寧に記録し個別の買い物や季節の外出行事などを支援し、日々温かな姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここは我が家だ」と「従業員心得」の理念を事業所内の見やすい場所に設置している。職員の入職時に管理者から理念を説明したり、職員会議で改めて共有化を行っている。	利用者が地域の中で自宅のように過ごす「家」を根本にした理念を作成している。7か条にある、普通の生活を支えるサポーターとしての考えを管理者は特に大切にして職員と共有し、日常生活の具体的なサービスで実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内清掃や学童防犯パトロールに参加している。大学祭や幼稚園のお遊戯会に利用者も参加し、交流も行われている。	近くの大学祭に参加する一方、サークルの学生の来訪もあり相互に行き来して交流している。幼稚園のお遊戯会を毎年見学している。近隣の花を眺めたり、新鮮な野菜を戴くなど住民と自然に触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福寿草通信を作成し、町内会や大学、信金などに配布している。地域に向けて認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、施設での取り組みや行事などの活動報告をした際に、意見や助言を頂き、サービス向上に努めている。	会議では運営状況、行事、避難訓練、外部評価、認知症対応などをテーマに意見を交換している。おむつ業者の参加で情報も得ている。利用者は参加しているが家族の参加は少ない。全家族に会議案内と議事録を送付している。	各会議案内にメインテーマを記載し、参加できない家族の意見も得て会議の話題にし、家族の関心が高まり、参加につながるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に運営推進会議に参加してもらい、施設での取り組みに対して必要な意見や助言を頂き、協力関係が築けている。	書類提出などで分からない時は市役所に出かけて担当者に確認している。生活保護担当者とは事例に沿って相談したり連絡を密にしている。行政取り組みの認知症サポーター養成講座に協力し、研修会には職員も参加してケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や外部研修に参加し、身体拘束について学んでいる。身体拘束マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる場所に配置し、日々理解に努めている。	虐待・身体拘束に関する法人研修にほぼ全員が参加し、資料の閲覧で共有している。具体的な身体拘束禁止行為についても理解し、安全な見守りと職員の連携で拘束のないケアに取り組んでいる。カンファレンスで言葉遣いも話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加したり、外部研修案内を各ユニットに配布するなど、虐待防止を学ぶ機会を増やすようにしている。職員会議やユニット会議では、ケアの方法が虐待に当たらないか管理者を中心によく吟味し、介護方法を決定している。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	普段の研修にて制度について理解を深めている。現に後見人がついている入居者がおり、普段から連絡、協力関係を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に入居者と家族の前で説明や情報提供を行い、質疑応答も受け付けている。管理者だけではなく、職員にも気兼ねなく話せる体制作りを築いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの何気ない要望も、管理者職員含め、普段のミーティング、カンファレンスなどで上手く共有出来る様にしている。又、運営推進会議などで議案として報告し、意見を仰いでいる。	遠方の家族には電話で確認し、来訪時には介護計画の意向を話し合いフェイスシートなどに記載している。今後は個別毎に記録して些細な想いの共有化を考えている。毎月個人ごとに手書きのお便りを送り喜ばれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や管理者会議にて、職員の提案や要望を聞き、必要な対応を取っている。定期的に代表者と管理者が面談し、運営や職員処遇などの話し合いも行われている。	職員会議や日々の業務で意向を聞き、管理者は法人管理者会議に上げて働きやすい環境に配慮し、処遇改善計画の説明で職員の意欲につなげている。必要に応じて職員と個別に話し合っている。職員は各業務を分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、職員の勤務実態に対する給与水準や労働時間、労働環境改善に向けての具体的解決策の方針を決定するなど、常に意識して進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種会議にて法人内外の介護のスキルアップの為の研修を厳選して案内している。日常のケアの中で、個々の能力を管理者が把握し、その人に必要な知識や技術を学べる研修には無料有料問わず代表者や管理者が参加を個別に換気している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の事業所同士の集まりや講習会などで、お互いの事業所の情報交換や意見交換を行い、当事業所にフィードバックするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が好まない介助方法や嫌がる声掛けなどの情報を職員間で共有し、不安や疎外感を感じさせないような関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から意向の聞き取りを行い、衣類の選定や外出の希望など、各々の要望を表現できる信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や入居時の様子観察を元に、本人にとって今必要なサービスは何かを家族とも話し合いながら決定し、よりより支援を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや洗濯たたみなど、本人が楽しんで職員と一緒に出来ることを支援目標に入れながら、生活を共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出を家族と企画したり、生活上本人にとって必要な物品を相談し購入してもらうなど、家族と良好な関係を築きながら家族と共に本人を支援していくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来所した時に、居室でゆっくり話ができるような配慮をしている。又、家族の協力も得ながら、昔から馴染みのある散髪屋にいたり、自宅で外泊するなどの支援に努めている。	昔からの友人や近所に住んでいた方の来訪があり、気持ちよく過ごせるように対応している。家族の支援で法事や温泉に行く方もいる。事業所の送迎で馴染みの理容院に出かけている。意向に沿って畑作りや趣味が継続できるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が孤立したり、ストレスを抱えない様、職員が交流の媒介役を果たしたり、定期的な席替えも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人や家族などの要望があれば、介護や他入居施設の相談なども随時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設入居後も、なるべく本人の生活スタイルや嗜好に寄り添ったサービスを展開するように努めている。	会話や仕草から思いを把握し、フェイスシートに記載して共有している。外出や趣味などの意向が継続できるように家族と相談しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	畑をされていた方には畑作業を手伝ってもらったり、編み物が好きだった方には毛糸を購入し、毎日編み物を楽しんで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排尿間隔に応じたトイレ誘導や、有する能力に応じた機能訓練などを個々の体調や生活スタイルの中で盛り込んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の会議の中で、本人と家族の要望を考慮しながら、職員と現在の支援目標の課題や問題点を話し合い、支援目標を模索している。	毎月会議で全利用者の状態や課題などを記録し、丁寧に行っている。担当職員を中心に評価を行い、安定している場合は1年ごとに介護計画を作成しているが、今後は職員のモニタリング記録の工夫で可能な限り6か月期間の作成も考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子があった際は、必ず個別記録に記入し、職員間で引継ぎを行い、共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入用者の心身の変化に伴い介護方法を変えたり、家族に替わり通院や役所の手続きをするなど、日々変化する入居者や家族の状況を把握し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや他事業所と協同し、SOSネットワークを構築したり、大学や附属幼稚園と交流を図るなど、安心し楽しめる社会資源の活用に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望した場合、協力医療機関だけでなく、その他医療機関の受診も検討している。本人の疾病状況に合った適切な専門医療機関の選択を意識している。	専門的なかかりつけ医の継続や協力病院の受診は事業所でも対応している。状態に応じて家族も主治医の説明を聞いている。月1回の協力病院の訪問診療のほか、看護師の訪問時や電話で常に相談し受診内容を個別の特記事項に記録している。	

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や定時連絡などで入居者の心身の状態を報告し、指示を仰いでいる。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は医療機関と綿密な情報共有をし、より適切な治療や介護方法を検討している。訪問看護や定時連絡で、普段から入居者の心身の状況を医療機関と共有する様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面で十分な説明をし、同意を得ている。重度化や終末期になった場合、再度医療機関とも連携しながら、家族に説明を行っている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に関する指針」と「看取り介護に関する指針」を説明している。重度化や終末期には協力医の下で家族の意向に沿って可能な限り対応し、医療行為が常時必要な状況で病院治療につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護事故の研修で急変や事故発生時の対応を学んでいる。緊急連絡網や事故対応マニュアルを作成し、入職時や会議などで確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間も含めた避難訓練を実施している。町内会でも緊急連絡網を作成してもらい、協力を仰いでいる。	消防署の立会いで日中を想定した避難訓練を行っているが、住民の参加は得られていない。夜間想定で自主訓練も実施している。地震などを想定した詳細なマニュアルを作成し、災害時には町内会との協力体制を整備している。	災害時の地域住民の協力内容を明確にし、夜間を想定した訓練には、住民の参加を得て行うことを期待したい。地震などのマニュアルを基に、事業所内の危険箇所の確認や各ケア場面での対応について話し合う機会を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや羞恥心に配慮した言葉掛けを行うよう心がけている。プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報の取り扱いにも気をつけている。	法人研修で接遇について学び、人生の先輩として尊重した声かけや対応を行っている。利用者は「さん」づけで呼びかけ、申し送りをする時も利用者に聞こえないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、本人の意思を確認し、思いを表現しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション、食事、入浴の提供時間などを、体調を考慮しながらなるべく本人のペースで無理なく提供出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容、整容日には爪きりや耳掃除を実施し、清潔や身だしなみを整えている。毎日化粧をしたり、外出の際にはおしゃれが出来る様に支援している。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や食事形態も事前に聞きながら食事を楽しんで頂いている。食器拭きやおしぼりたたみなど、無理ない程度に一緒に行っている。	普段の副食は専門業者の品を活用しているが、月1回は利用者の好きな献立で、麺類や畑で採れた野菜、季節感のある食事を楽しんでいる。個別支援で、蕎麦屋や回転寿司などに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、摂取量が減少している時は内容の変更、代替栄養の確保、提供時間をずらすなど個々に合わせた食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の見守りを行い、出来ない部分は歯ブラシや脱脂綿、スポンジなどで個別介助を行っている。義歯は每晚洗浄剤で消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を記録し、本人に合わせたトイレ誘導や声掛けを行っている。必要に応じて見守りや介助を行っている。	自然排泄と自立の継続に積極的に取り組んでいる。夜間は睡眠を重視してパッドを使用することもあるが、日中は可能な限りパッドやおむつの使用を控えてトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事、水分量の確認や適度な運動、オリゴ糖の使用や排便体操、腹部圧迫など、なるべく便座での自然排便を促している。下剤使用時も個々に合った日にちや量を決定している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングや体調に合わせてられる様、午前午後と時間を分けたり、別の日にずらし対応している。入浴剤やゆず湯などの変わり風呂など、楽しく入浴出来る様に工夫もしている。	火曜日と金曜日を基本に、週2回の入浴を支援している。曜日によって入浴剤を変えたり、本人や家族の意向でシャワー浴で対応しながら入浴が楽しめるように工夫している。身体状況に応じてシャワーチェアなども活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合った就寝時間の声かけをしている。居室の温度、湿度管理にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師と情報を共有しながら、本人に最適な用法や服用量を決定している。副作用が強い場合は随時受診などで相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操やレクリエーションの他にも、洗濯たたみや畑仕事、編み物など、本人の生活歴や趣味に合わせた支援を行っている。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩したり、畑を見に行くなど、その日の希望により職員と一緒に外出している。季節に応じて花や木々などの自然を見にドライブに行ったり、外食や買い物、近隣のお祭りに行くなど少しでも出かけられる様に支援している。	利用者の状況に応じて近隣の散歩コースを変えたり、玄関先で外気浴をしている。戸外で体操した後、外気に触れながらお茶を飲むこともある。花見や紅葉見学で旭山公園や新富公園に外出したり、個別支援で牧場や温泉に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出での飲食や買い物の際は、なるべく自分で会計をして頂く支援をしている。お店に行けない入居者は、希望の品を尋ねてから職員が購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の日中の都合のいい時間帯を聞き、スムーズに電話出来る様に支援している。本人への郵便物は本人と一緒に確認している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花や季節感のある飾り、本人の描いた塗り絵や手作りの作品を展示している。その都度本人に尋ねて、適度な温度や湿度を調整し、快適に過ごせるように工夫している。	対面式のキッチンがあるゆったりしたリビングで、大きな窓は過ごしやすいうようにブラインドで明るさを調節している。トイレは、リビングから見えない場所に配置した造りになっている。季節感のある紅葉の貼り絵や手作りカレンダー、利用者の毎月の日常写真なども飾られており、家庭的な温もりが感じられる室内になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が好きな者同士で座って話されたり、テレビを観たい方は見やすい場所に座ったりと、それぞれの思いに合わせた居場所になるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が愛用していた家具などを持ち込まれたり家族の写真を飾ったりし、出来るだけ自宅と同様に居心地良く生活出来るように配慮している。	クローゼットと洗面台がある居室で、馴染みの家具や好きな品々を持ち込んで本人が過ごしやすいうように工夫している。入り口に自分の作品を飾ったり、誕生日カードや写真なども室内の壁に飾られていてその人らしい落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事、理解出来る事を認識し家具を配置したり、廊下や風呂、トイレの手すりの設置場所など、安全且つ自立出来る様な環境作りを行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902603		
法人名	有限会社ヘルプ		
事業所名	グループホーム福寿草 2階		
所在地	北海道旭川市永山2条23丁目1番22号		
自己評価作成日	平成29年10月16日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kan=true&JigyosyoCd=0172902603-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当社創設から掲げている「ここは我が家だ」の理念を基に、入居者は家族の一員、人生の貴重な先輩として対応することを心がけている。日常生活の中で、入居者本人や家族の思いを汲み取る為に関係を密にし、よりよい支援に繋げるようにしている。健康管理についても毎日の体操や日替わりのレクリエーション活動を充実させ、ADLの機能維持・向上に努めている。母体の医療機関とは24時間体制で医療連携が取れており、利用者様の体調変化について随時報告行っている。個別支援にも力を入れており、要望により個別外食や運動、余暇活動を取り入れ、その人らしく楽しみや目標を持てるように工夫している。又、町内会の町内清掃や学童防犯パトロール、高齢者独居宅の除雪事業に協力したり、近隣にある旭川大学の実習生の受け入れ、附属幼稚園のお遊戯会の見学など地域との連携、協力体制も構築されている。地域包括支援センターや社会福祉協議会とも協力し、地域の町内会や学校などで認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の啓発にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、運営方針は各ユニット内に提示し、職員は業務の中で理念を意識しながらサービスできるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃や廃品回収、地域の小学校の通学見守り当番、幼稚園のお遊戯会、近隣の大学祭などに参加し、地域の交流を積極的に行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福寿草通信を町内会、近隣の大学、信金、病院に月1回配布し認知症の啓発活動を行なっている。町内会などで認知症サポーター養成講座を行ない、認知症の啓発や支援方法を地域に向けて還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から現状や日々の活動を報告し、家族や行政、町内の方から意見や情報提供を頂いて、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に出席して頂き、日頃から相談などし、適切なアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、外部研修の受講を基本として、事業所内での職員会議、カンファレンスなどで研修を重ねて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルも備えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修等から高齢者虐待の知識を身につけ虐待の無い介護に努めている。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部や外部の研修を通じ、職員一同で内容を共有すると共に、必要に応じて話し合いを行っている。一部当事業所の利用者様も活用されており、権利擁護について身近に触れる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際はご家族様に分かり易く説明させて頂くと共に、疑問点や不安な点があれば、丁寧に対応させて頂いている。重要事項の変更に関しても事前に書面を交付し、質疑応答にも努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常生活における希望・要望をくみ取り、より住みやすい環境を整えるよう努めている。又、ご家族様とも連携し、より良い生活を実現できるよう意見交換も行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行っており、管理者と介護職員で話し合う事により、良い意見を導き出せるよう努めている。又、代表者と管理者で集約された意見・提案を吟味・実行し運営に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は職員の情報を共有し、職員の身体的負担の状況や勤務に対する姿勢・今後の目標等を把握し職場環境の整備に努めている。又、休日に関しても職員がリフレッシュ出来るよう有給休暇を適宜使用できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の内部研修や、随時案内がある外部研修を通じ、より良いケアを実現できるよう参加を促している。又、内部での研修後は職員内で情報を共有し、介護技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業者が協同で認知症サポーター養成講座を行い、その際に施設職員を参加させる等、地域同業者と施設間の繋がりを大切にしている。又、永山地域における事業所の集まりや、SOSネットワークでの連携等、同業者間で情報共有ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に会い、今抱えている不安な事や要望を聞き、状況を把握できる様心掛けている。入居後はそれらに配慮した対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に面談し不安な事、また、家族からの要望を把握し、ご本人、ご家族、グループホームの良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に合わせたケアが出来る様に心掛けています。必要なサービスを見極め対応し、地域包括支援センター等と連携を取り、適切な対応が行なえる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話や、日々のケアの中から互いを尊重し合える関係を見出している。一緒に行なえる事は共に行い、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月各職員が利用者の様子を書いた手紙をご家族に送っている。面会時にも利用者の状況や日々のケアを報告し、ご家族からアドバイスや助言を聞き入れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族がいつでも面会に来られる様対応している。面会時には自室でゆっくり過ごして頂いている。ご本人の希望に応じて、外出、外食、ご家族との外出にも行かれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月のカンファレンスで利用者同士の関係を把握できるよう情報交換して、一人ひとりが穏やかな生活が出来る様努めている。コミュニケーションを取る事が困難な方には、職員が入り関係作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、その後の本人の様子をお聞きし、ご家族の要望に応じて支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのお話を傾聴し、何か希望が無いか、生活に不自由な事が無いか確認している。希望を伝える事が困難な方にも、その方に合ったサービスを提供できる様ご家族と相談し、より良い支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム福寿草独自のフェイスシートやアセスメントシートを活用し、利用者様の生活歴や、これまでの支援方針を職員全体で把握し易いよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活アセスメントシートを活用し、ご本人の一日の過ごし方が分かるよう各職員で記入、記載を行なっている。ご本人がお変わりがあった時は、用紙に記載させて頂き、職員で把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態に応じてご家族やご本人の意向を確認している。職員や医師の意見も参考にしつつ、支援の変更を行なう等、状況に応じた介護計画を作成し、サービスを提供している。サービス担当者会議で今後の支援について話し合う場を設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活において、状態変化に対応できるよう個別記録を取っている。又、会議や、日常等で介護方針に変更があった場合は、全体で把握できる申し送りノートを活用し、職員間で努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別レクとしての外食や買い物や、定期的な検診対応を行なっている。ご本人の希望や状況に応じたサービスを提供出来る様、随時職員間でニーズを把握し、情報共有する事で今後の支援計画に役立てている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大学のボランティアの方による、クリスマス会や幼稚園の歌などの訪問をして頂いたり、大学祭の見学や、近隣住民の方と学校の下校時の見守りに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ病院から看護師が訪問している。ご本人の体調に変化が無いか確認し、問題あれば受診対応行なっている。毎日かかりつけの病院から定時連絡があり、その日の状況報告を行なっている。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関とは毎日定時連絡を行なっている。又、月1回の訪問看護時に必要に応じて、受診、薬の処方等を医療機関に確認、相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関からの説明をご家族と共有し、入院中、退院後、利用者様が不自由な思いをしない様、ご家族様や医療機関と共に情報交換し行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても、ご本人、ご家族が安心して穏やかにホームで生活できる様、指針を作っておき、それに基づき、ホーム、家族、医療機関とでチームとして支援できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故の発生時適切に行動ができる様マニュアルを壁に提示している。又、事故やヒヤリハットをレポートにし、職員間で情報の共有をし、今後どうするか会議で話し合いをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消防署の指導により非難経路の確認、近隣との協力体制を作っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助の際にも本人の気持ちを尊重し、配慮するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい利用者様に対して傾聴し、状態を把握して希望に添える様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調や希望に合わせ、無理のない様暮らしで頂ける支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容があり、ご本人の希望を聞き、カット、カラー、パーマが出来る。起床時、洗顔、髪の毛のセット、適宜爪きりを行ない、身だしなみに気を使う様支援している。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けを工夫したり、月に1度ホームで手作りの昼食を提供したりと食事を楽しめるよう支援を行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせて、米飯やお粥、副菜は食べやすい大きさに刻んだり、ペーストにしたりと支援を行なっている。食事摂取量や水分量は随時チェック表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、その方の出来る範囲で毎食後に見守りや介助を行っている。義歯を使用されている方は毎晩洗浄剤で消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、その都度声掛けしてトイレ誘導、介助を行っている。自分からトイレに行けない方もトイレで座って排泄出来るよう対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎日の食事量と水分量には十分注意している。又、主治医と相談し、内服薬で排便の促しも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の午前と午後に入浴を行っている。拒否される場合でも時間を置いて再度声掛けし、ご本人のタイミングで入浴して頂いている。体調不良の方は別の日に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせて、毎食後に声掛けを行い、希望される方は居室で休まれている。部屋の照明や空調、室温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、必ず職員2人以上で確認してから服用して頂いている。又、副作用、用法や用量の確認を行い、理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る範囲で洗濯物たたみ等行って頂いたりしている。毎日のレクリエーションは無理のないよう利用者様の状態に合わせて楽しんで頂いている。		

グループホーム 福寿草

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気絶ごとに季節を感じる事の出来る場所に見学に行っている。又、出来る限り外出する事が出来るよう、環境作りをしている。地域にある大学、幼稚園と連携し、普段行けない場所を見学している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お店に行けない利用者様は希望する品を尋ね、職員が購入している。又、お金の使い方を忘れないよう、計算問題等を普段から行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者様は、自らできるよう相手との都合を調整している。手紙を書くことの出来ない利用者様にも代筆等の手段により、やり取りできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレに子犬の写真を飾り、居心地のよい様工夫したり、季節ごとの利用者様の写真に季節感が感じられる飾り付けをしたり、花を飾っている。光量、室温を利用者様に合わせ、その都度調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段会話されている利用者様同士を近くに移動したり、一人であることを好む利用者様には一人で作業できる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人の使い慣れた家具等を持ってきて頂き、普段使うものもご本人の希望に合わせ調整している。又、ご家族との写真を飾り、思い出を思えるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を職員一同が情報を共有し、安全に生活できるよう努めている。又、歩行器具の導入や動線の確保等により、安全かつ出来る限り自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 有限会社ヘルプ グループホーム福寿草

作成日：平成 29年 11月 19日

市町村受理日：平成 29年 11月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議において家族の参加が少ないので、参加できない家族の意見も収集し会議の話題にし、関心を持ってもらう必要がある。	運営推進会議案内に議題を貼付したり、議題からの提案を家族から募り、関心を持ってもらう。	・会議案内文書に議題を添付する。 ・家族来所時、議題について意見や要望を募る。 ・参加できない家族の意見を会議の話題にする。	1年
2	35	地域住民の参加を得た災害に対する避難訓練をしばらく行っていない。	災害時を想定した避難訓練における地域住民の参加と、協力内容の確認。	・マニュアルを基に事業所内の危険箇所や各ケアの場面での対応について話し合う機会を作る。 ・災害避難訓練に地域住民にも参加してもらう。 ・連絡体制や避難誘導の確認。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。